



大樹のこころ

授業の3つの柱

9月12日(月)13日(火)に行われました学校開放日。感染対策として3つのグループに分けての参観となりました。多くの保護者に来校いただきまして、とても嬉しく思いました。1学期の学習発表会に続いて、2回目の参観日。お子様の成長を感じられたのではないのでしょうか。

自分は「授業の充実」を学校運営の柱としています。現在、大樹寺小で推進しているのが「ICTの活用」「見つけ学習」「チーム学習」の3つです。先日の学校開放日でも、タブレット端末を活用し「見つけよう」という課題設定のもと、子供たちが座席をチーム型に行う授業を、多くご覧になられたのではないかと思います。

ICT教育が大切であるということは、ご理解いただけたと思います。これから先の社会は、スマートフォンやタブレット端末がない生活は考えられません。子供たちは、これらの機器を活用して生きていくことになります。つまりICT教育は、学校現場において喫緊の課題なのです。本校では1年生でもタブレットを使って授業を行っています。高学年では、キーボードを使って自分の考えなどを入力するようになってきています。授業ではスクールタクトという学習アプリを活用しています。このアプリは、友達の考えなどを一瞬で共有できるもので、学習の効率化につながっていきます。また子供たちもタブレットを使っての授業では意欲的になっていきます。まさに良いことづくめ。現在、大樹寺小はタブレットの利用回数で、岡崎市内1位となっています。

見つけ学習は、子供の主体性を促し授業への参加度を高める学習法です。学習課題に対して、根拠となる事実を教科書や資料集などから見つけ、それを「自分がどう思うか」と考えていくものです。いわゆる「正解を求める授業」からの脱却を図っています。従来の正解を求める授業では、学習が得意な子が中心となってしまいます。しかし「自分がどう思うのか」と問われれば、誰もが授業に参加することができるようになります。教室の中にヒエラルキーを作らず、どの子も平等に学べるようにしています。

チーム学習は、岡崎市が推進している学習法です。4人1組のチームとなり、互いに教え合いをしながら学びを深めていくものです。一人の教師が40名もの子供の学習を見取ることは難しい。そこで、チームの中で協力しながら、学びを進めていきます。教師はファシリテーターとなって、各チームの学びの進捗状況を見て、支援・助言をしていきます。またチームのメンバーで助け助けられることを通して、良好な人間関係を育てていくことも期待されています。

大樹寺小学校では、ICT教育・見つけ学習・チーム学習の3つが有機的に機能する、質の高い授業の実現を目指しています。子供たちの学びが深まっていく姿を楽しみにしています。

